ISSN 1345-0379

KOTOBA NO UMI

# ことばのうみ

宮城県図書館だより

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No. 25 2007. 7

## 特集 紙芝居 今ふたたび —紡いだ歴史を未来へつなぐ

写真：本館子ども図書館にて

## 書物は神

高橋克彦

『ライブラリアン』という映画がある。アメリカの世界一、二の蔵書量を誇る図書館の地下に古代の秘密が隠され、そこの司書は神の庇護者の役割も担わされているという設定だが、なるほどと感心した。

現代の図書館のイメージからは荒唐無稽と思えるが、もともと文字は神からの賜物で、それを記した書物は神の叡智を示すものに他ならなかった。司書はまさしく神に仕えていたのである。

人の命には限りがある。けれどその言葉や思いを記した本は永遠に残る。文字に神が宿るという考え方もたぶんそこからきている。書物はそれだけ貴重な遺産だったのだ。文字が読めれば居ながらにして世界の秘密に触れることさえできる。古代の王たちは争って書物を蒐め、図書館を権威の象徴とした。

書物へのそういう崇敬が薄れかけている。

私たちの今は、そのことごとくが書物を通じて受け継いだものなのだ。それを忘れてはならない。

（たかはし・かつひこ　作家）